

事業概要書

事業名	移動こども図書館と交流図書室おはなしサロン事業				
開始日	2021年4月1日	終了日	2022年3月31日	日数	365日
団体名	特定非営利活動法人おはなしころりん				
(カウンターパート)	大船渡市立図書館、大船渡市教育委員会				
担当者名	江刺由紀子	スタッフ人数	7人		

事業費総額(税込)	5,881,266円
CF事業枠	5,000,000円
その他資金	881,266円

事業目的	<p>子どもの生きる力を育む「読書活動の推進」、読書を通じた地域住民の多世代間交流により子どもが安心して過ごせる「居場所づくり」を行う。子どもの健やかな成長をサポートし、子どもを見守る住民を結ぶ「地域のつながり活性化」を目指すことで、未来につづくより良い地域社会をつくる。</p>
事業全体の概要	<p>●おはなしころりんとは</p> <p>子どもが読書を楽しむことで、しなやかで力強い成長がなされるよう平成15年7月に任意団体を設立。大船渡市を中心に子どもへの絵本の読み聞かせ等を行う。「スローガンは”本でつながろう 本で心をそだてよう みんないっしょに”」。東日本大震災後には避難所での読み聞かせに始まり、仮設住宅団地・災害公営住宅団地・地域集会所等を訪問。子どもへの絵本の読み聞かせや貸出のほか、地域住民へ読み聞かせ講座や参加者と子どもの交流、お茶会などを行う「やってみっぺし読み聞かせ」活動を継続。平成28年7月にNPO法人化。地域団体・施設への絵本や児童書の貸出、地域交流図書室おはなしサロン運営のほか、地元ラジオ局での朗読番組、東南アジアに絵本を送る活動を行ってきた。陸前高田市など近隣の沿岸地域でも活動し、現在は防災活動や住民交流の場である大船渡市防災観光交流センター2階を管理・運営。防災ワークショップやイベント等も行っている。</p> <p>●取り組むべき課題</p> <p>東日本大震災で子どもが受けた心の傷をいやし、辛さを乗り越え、明るい未来へ夢を抱き、行動を起こせるよう成長するためにはしなやかで豊かな人間形成が必要である。それには充実した読書活動が不可欠である。読書により表現力や語彙力、感受性が磨かれ、他者と共存し、人生を切り開いていく力が備わっていく。しかしもともと交通の便が悪い当地では子どもが図書館に足を運ぶことは容易ではない。震災以降ますます交通全般において不便となり、子どもの手に本が届きにくい状況である。また、子どもが安心して伸びやかに成長していくには、すぐそばにいる地域住民からの子どもへの思いやり・声掛け・気遣い・優しさが大事になってくる。</p>

一方、家屋の流失により昔ながらの近所付き合いができずにいる地域においては、心の立て直しと安定・安全・安心のために、子どもを含めた地域コミュニティの再構築と維持により、人と人とのつながりを実感できることが重要である。震災により一時的に地域の繋がりが絶たれ、不安定な環境で過ごしてきた子どもも多い。読書を通じたコミュニティの繋がりが途絶え、子どもの成長を妨げてしまうようなことがあってはならない。災害公営住宅団地、住居の自力再建と高台移転など、新たな環境での人の充実した結びつきにかなう支援活動が求められている。

これらの状況を踏まえ、当団体は子どものいる場所に本を届け、借りやすく返しやうい図書環境を整備し、子どもが本に触れる機会を増やすとともに、まわりの大人の理解と協力も得ながら、子どもの読書活動の推進を図る活動を実施してきている。

移動こども図書館事業は 2011 年 5 月に、地域交流図書室おはなしサロンは 2015 年 1 月に活動を開始し、本年度まで続けてきた。この 2 つの活動によって、子ども達が本の楽しみを知り、読書に喜びを感じるとともに、本でできた数多くの細やかな人のつながりを大切に思ってくれるようになった。その変化を地域住民が喜び、子どもの成長を見守る役割をになう必要性も理解している。

子どもたちへのサポートを途切れることなく今年度も実施するとともに、事業継続が可能な体制づくりや地域行政との連携などにも取り組む。子どもの成長や地域社会の活性化は短期的では成果が出づらく、中長期的な視点での活動が必要である。アンケート調査や評価・検証委員会を定期的実施することでプロセスを共有し、より多くの人に長期的な活動継続への理解や協力、賛同を得られるよう努めていく。子どもが夢を抱き、挑戦する力を読書活動で培ってもらうような働きかけと、より効果的で持続可能な事業実施のための図書支援スタッフの人材育成も実施する。

なお、本事業は、おはなしころりんの事業継続のための 1 年間の支援と位置付けており、本事業期間内に翌年度以降の事業計画と資金調達を目指す。

●パートナー協働プログラム対象事業

①移動こども図書館事業

1) 図書貸出活動

※図書の貸し出し巡回訪問先により対象となる年齢層も異なるため、活動内容が 3 つに分類される。以下のとおり。

【大船渡市内全小学校 11 校】(各校毎月 1 回の訪問)

各学校に毎月 1 回、特別支援学級も含めた全クラスに 30 冊ずつの絵本や児童書を学級文庫として貸し出す。本の内容は、良書や調べ学習対応図書など児童生徒の興味を引き出すものをスタッフが選書する。児童生徒自身による図書管理を促すため、貸し出し本リストを添付する。リストには自由筆記欄を設け、児童生徒からの要望やリクエスト本の把握に活用する。学年や季節に応じた「おすすめ本情報」を載せた「ころりん新聞」を年間 6 回程度発行し、読書意欲の喚起に努める。

対象全 11 校: 盛小学校・大船渡小学校・末崎小学校・赤崎小学校・猪川小学校・立根小学校・日頃市小学校・大船渡北小学校・綾里小学校・越喜来小学校・吉浜小学校

【大船渡市内と陸前高田市内の子育て支援団体】（各所毎月1回の訪問）

各所に出向き絵本の読み聞かせおはなし会を開催。子どもと保護者に対し絵本の紹介と貸し出しをおこなう。図書レファレンスや子育ての相談に応じ、交流を深める。

対象 12 か所: のびのび子育てサポータースマイル・きっぴんきっず・こそだてシップ・猪川保育園おひさま広場・慈愛福祉学園デイサービス・特別支援ひまわり教室・五葉キッズ・キッピン学童クラブ・広田保育園にこここ・子育て支援あゆっこ・高田保育園たかた・きらりんきっず

【災害公営住宅団地・地域集会所・地域公民館・高台移転先等】（各所毎月1回の訪問）

災害公営住宅団地等の子どもや住民が集まる場所 18 か所に毎月1回訪問。読み聞かせや図書レファレンスをしながら、子どもに絵本や児童書の供覧と貸し出し活動をする。大人には一般古雑誌等の無償提供、書籍や実用雑誌の安価な古本市をおこなう。参加者にはお茶や茶菓子を提供し、簡易のお茶会を開き、交流活動によって地域コミュニティの活性化を図るとともに、傾聴活動により心のサポート支援にも取り組む。要望に沿って他に地域行事や子ども会行事等にも対応する。

2) 評価・検証委員会

【委員会開催】

より良い活動につなげるための評価・検証委員会を年3回程度開催し（5・11・2月）、進捗状況など確認する。委員は、市立図書館職員、学識経験者、読書活動従事者、地元大学研究者。

【アンケート調査の実施と検証①】

大船渡市内全小学校の高学年（5年・6年）を対象に、読書の状況や環境についてのアンケート調査をおこなう。調査結果は各小学校や大船渡市教育委員会と共有する。岩手県教育委員会のアンケート調査との比較により、大船渡市における問題点等を明確化し、今後の活動に役立てる。

【アンケート調査の実施と検証②】

令和3年度は東日本大震災から11年目にあたり、復興支援の観点からひとつの区切りの年であることから、この先の中長期的な読書推進活動の方向性を定める必要が生じる。復興支援活動からステップアップし、今後の地域課題の解決に向けた活動にシフトしていくための資料となるよう、「子どもや住民が必要としていることは何であるのか」を明確にするアンケート調査を実施する。調査方法は思いをより正確に把握することを目指し、スタッフが各所で活動する際、対面での聞き取りを行う。対象は小学生から高齢者までで、内容は「希望する読書環境」「興味のある読書イベント」「居心地のいい居場所とは」等。市民全体が望むところを確認し、今後の読書推進や本による居場所づくりに反映すべく声を集める。

3) 軒下古本市（コロナ禍での三密回避しながらの本との出会いの場提供）

事務所前から図書室前までの外の空間を利用し、毎週月から金までの午前9時から午後4時までの間、約300冊の本を並べ、通りすがりの子どもや住民が本を選べるよ

う設置する。絵本から一般書籍まで本の寄贈も受け付ける。無料コーナーの他に安価（10円、100円）で販売するコーナーも。

4) 子どもたちの図書環境の好転を図るために必要なスタッフ研修

【図書および読み聞かせの研修】

読書ボランティア講習会などの外部研修、読み聞かせ技術アップのための自主企画研修など、スタッフやボランティアを対象に年間3回程度の実施。

【その他の研修や取り組み】

- ・事業運営に必要なスキルアップの研修実施。報告書やちらし作成等のパソコンスキル、わらべうた講習会（昔話等の読み聞かせや交流イベントのスキル向上）を各年間1～2回程度予定。
- ・スタッフ内で事業計画や資金調達について検討するチームをつくる等、後継者育成にも取り組む。継続的な事業運営へと繋げる。

② 地域交流図書室おはなしサロン

毎週4日間（月火金土）午前10時から午後3時までの開室（コロナ対策として例年より時短）。開室前30分と閉室後30分で室内のアルコール消毒を徹底し、入り口に手指消毒装置を設置。

- ・絵本や児童書などの図書の貸出（ひとり1日3冊まで、返却期限は定めない※）、返却場所は市立図書館や地区公民館など複数の公共施設で可能）
- ・図書の閲覧
- ・スタッフによる個人対象の絵本の読み聞かせ、集団へのおはなし会の開催
- ・季節に応じた絵本の企画展展示
- ・おすすめ本紹介などを内容とした「おはなしころりん新聞」作成と掲示
- ・遊び、おしゃべり、お茶会
- ・イベント開催（毎月第2土曜日）令和3年度は開室7周年記念イベントを実施予定

※子どもたちに自分のペースで思う存分読書を楽しんでもらうため期限設けず。通常は1ヶ月程度の利用期間。返却場所が複数あり、また移動図書館やイベント等でも返却可能なため、利用者と顔を合わせる機会も多く未返却になるケースは多くはない。本の出入管理は事務所にて一括で記録をつけ確認を行っている。

● 期待される効果 ※効果をはかる数値的な評価指標は別資料参照（別添資料1参照）

① 移動こども図書館事業

○ 学校支援活動・軒下古本市について

- ・読書を通して自身の意見や想いについて考え、表現する力が身につくことで、将来の夢ややりたいことを思い描き挑戦する力が培われる。
- ・感受性が豊かになり、想いを言葉や行動にして人に伝えられるようになることで、相手の気持ち受け止め、考えて行動する力が養われる。

○ 子育て支援団体訪問・地域巡回

	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して一緒に読書を楽しむ機会を提供することによる、安定した親子関係の維持。読み聞かせおはなし会への参加、図書を借りる、スタッフや住民同士の談話・相談など楽しい時間を共有することで親も人のつながりや支え合いを実感でき、そのコミュニティの活性化が期待される。 <p>○子どもたちの学習環境の好転を図るために必要な研修会等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが研修会后、実際に活動に生かすことができる。スキルアップにより子どもたちの読書環境改善に繋がると期待される。 <p>②地域交流図書室おはなしサロン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を間に子どもも大人も楽しみ、くつろげる空間を提供。地域住民が交流し、住民同士が新たな関係を構築することで精神的な拠り所となる場を創出し、地域コミュニティの充実に繋がる。 ・子どもにとって、本を身近に置いた学びの場であるとともに、地域住民に見守られる安心感に包まれた場となり、健やかな成長が期待される。 ・隣同士・商店街の皆さんと協力してイベント等を行うことで、地域の連帯感を高め、地域活性化に貢献する。
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	
	裨益者 (誰が、何人)
<p>①移動こども図書館事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 図書貸出活動 2) 評価・検証委員会 3) 軒下古本市 (コロナ禍での三密回避しながらの本との出会いの場提供) 4) 子どもたちの図書環境の好転を図るために必要なスタッフ研修 	<p>大船渡市また近隣地域の1),2),4)子ども 16500人、大人 550人 (小学校児童生徒、未就学児童及び保護者、地域住民)</p> <p>3)子どもおよび大人 600人 (地域住民)</p>
<p>②地域交流図書室おはなしサロン</p>	<p>大船渡市また近隣地域の1700人 (子ども、保護者、地域住民)</p>